

在学生・修了生インタビュー

※所属先については、令和3年11月末時点での情報です。

吉原 亜矢子さん HBMS 1期生 株式会社レガール エグゼクティブマネジャー

海外現地調査をきっかけにグローバルビジネスへ



本学へは、新しいことに挑戦することで自分が成長できる新たな道が開けるのではないかと期待し、経営の勉強をしておけば将来的に自分がやりたいことを見つけた時に選択肢が広がるのではないかとという想いで応募しました。在学中は広告代理店に勤めていましたが、研究の一環として海外現地調査へ行く機会があり、それがグローバルビジネスへ踏み出すきっかけに。現在では、日本企業の海外進出を支援する会社にキャリアチェンジしました。HBMSで最も良かったことは、同期生と利害関係のない家族のような関係性を築けたこと。年齢も会社も役職も関係なく、個人を尊重しながら、お互いの意見を率直にぶつけ合えるようになりました。修了後4年経った現在でもそのネットワークは健在で、ビジネスと一緒にしたり、影響を与え合ったりしています。また、仕事は本来もっと自由に無限で楽しいものであると気づき、失敗を恐れず何事にもチャレンジする勢いがさらに増しました。

石原 かおりさん HBMS 3期生 株式会社 Happy relations 代表取締役
一般社団法人ソーシャルケアビューティアー 理事

美容業界にもマーケティングの必要性を実感

美容室をメインとしたコンサルティングの会社で代表を務めています。起業してから勤めと経験と体力任せで事業を進めていましたが、顧客に対して最先端のサービスを提供するには、自分自身ももっと学ぶ必要があると感じていました。HBMSで学んだことで、ビッグデータではない地域に根ざしたデータを取ることの大切さを知り、改めて美容業界にもマーケティングは必要だと感じています。自分で考え、実践して、検証することをできるだけ早く回すこと(PDS)を自然とできるようになりました。コモンズやSDGsなど、これまで漠然と分かったような気になっていたことを、掘り返して教わることができたのも私にとって収穫だったと思います。私の仕事は美容室の営業後の時間帯や土・日曜に及ぶこともあったため、初めは仕事と学業の調整が難しかったですが、これまでやっていた業務を人に任せるか、タイムアップするかの二択で整理しました。今では在学中に行っていた時間のやりくりを継続し、基本的に土・日曜は休みに。仕事のスタイルを見直すよききっかけにもなったと思っています。



松原 一樹さん HBMS 3期生 広島県 商工労働局 海外ビジネス課 主査

即効性ある実践スキルを取り入れ実務が向上



前職の上司が2人連続でMBAホルダーだったのですが、彼らの仕事の進め方がそれまでのやり方と全く異なることに驚きました。非常に論理的に仕事の順序を組み立てる姿に憧れ、それからMBA取得が私の目標になりました。その後、転職して広島県庁の職員になり、中小企業の海外展開支援をする部署に配属されたことで、今までの仕事に比べて経営者と話しをする場が格段に増え、力不足を実感。以前の上司のように物事をもっと論理的に考えられるようになれば、今の仕事にも役に立つかもしれないと、HBMSの体験授業を受けに行きました。実際に入学してみると、すぐに職場で使える即効性のある実践スキルも多く、「実務に役に立っている」と感じながら2年間学ぶことができました。また、広島を拠点としている人たちが集まっているということも大きなメリット。困った時、すぐ会いに行ける距離に相談できる仲間がたくさんできたことは、本当に心強いです。文字通り、同じ釜の飯を食べて同じ体験をしているので、その中で培われた絆というのは、とても強いものだと思っています。

岡崎 修司さん HBMS 4期生 株式会社広島ドラゴンフライズ ゼネラルマネージャー 薬剤師

引退するアスリートのロールモデルを目指して



広島で4年間プロバスケットボール選手としてプレーした後、2018年に引退しました。引退後は、現役中に取得した薬剤師の資格を活かした医療関係の会社の立ち上げと、球団の運営に関わってきました。がむしゃらに仕事をする中で、経営について分からないことも非常に多く、MBAを取得することで体系的に学びたいと考えていました。そんな時にHBMSの存在を知り、自分の成長に繋がるのはもちろん、引退するアスリートのロールモデルにもなり得るのではないかと考え、決断しました。HBMSで経営管理の基本的な知識が身に付いただけでなく、現場で起こっている事象を形式知化して認知し、課題を見つけ、解決策を考えるといった一連の思考を構造化して考えられるようになったことは私の中でとても大きかったです。この春からは球団のゼネラルマネージャーに就任したので、球団運営における課題解決に向けて今後も尽力していきたいと思っています。また並行して、在学中に自分の会社で開始したM&Aによる事業買収と運営にも、ここで学んだことをしっかりと活かしていきます。

前田 裕生さん HBMS 4期生 株式会社ミライワーク 代表取締役
SDMS(精神障害のためのダイバーシティ・マネジメントSECTION) 実行委員会 実行委員長

仲間に助けられて 社会課題解決に向けて起業

以前は保険会社に勤めており、地域企業と連携して保険を軸にした新事業を創出するための知識やノウハウを得たのが入学のきっかけです。私が感じる最大の価値は、HBMSで学んだ共通言語を共有する様々なビジネスパートナーと出会ったことです。ベンチャービジネスを考える授業をきっかけに、1年次のカリキュラムや仲間とのディスカッションを通じてビジネスプランを磨き、在学中に起業しました。業務内容は、メンタル不調で会社を休んだり、辞めたり、社会から遠ざかっている人に向けての復帰支援を行っています。それまでずっと保険ではカバーできない、保険のその先にある社会問題を解決する策を探していましたが、別に保険会社にこだわらなくていいんだと。そう気付けたのも、HBMSで多様な価値観と生き方があることを学び、改めて自分の人生を見直すことができたからだと思っています。私のように転勤で広島に来た人が、HBMSで新たな夢を見つける…そんな人がたくさん集まれば、広島がもっと面白くなりそうですね。HBMSが気持ちのある人材が集まり縁が繋がるプラットフォームになるように、OBとしても協力していきたいです。



登 景子さん HBMS 4期生 株式会社ケン・リース FROM EATS PR担当

学びやスキル活かし 地域経済の循環を形に



現在はフリーランスの立場で、FROM EATSという事業の立ち上げに参画しています。FROM EATSは「食でまちを笑顔に!」をスローガンに掲げた、つくる人(生産者・飲食店)と、私たち食べる人(消費者)との繋がりをより豊かにすることを目指したプロジェクトです。HBMSのゼミ仲間が研究の一環として取り組みながら進めていた中で発案して立ち上げた事業です。現在は、地元野菜の定期便を軸にテストマーケティングをしながら、サービス開始に向けて準備中。ブランドをつくりあげていく段階なので、まさにマーケティングの授業で学んだことを実践しながら、改めて学び直しをしています。在学中には異業種の同期たちから多くの刺激を受け、講義やゼミでの学びを通じて、今いる場所で自分が目指したいものが明確になりました。「心が豊かになる地域経済の循環をつくりたい」という想いを共有する仲間に出会って、FROM EATSの事業に参画できたのも全てHBMSがあったからこそ。授業時間以外に自宅で課題に取り組む時間も多かったため、サポートしてくれた家族にも感謝しています。